

りんご生育情報(9月号)

令和6年9月20日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



1. 果実肥大状況

9月5日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、タテ径 109%、ヨコ径 110%と平年より大きくなっています。

表1 果実肥大調査結果 (mm)

	タテ径	ヨコ径
本年	77.3	86.2
平年値	70.6	78.4
平年比	109%	110%

※東和町の測定値。

2. 気象の推移

8月15日から9月17日までの気温、降水量の推移は図1のとおりです。気温は、平年より高い日が続き、おおむね平年値を上回りました。上記期間の平均気温の平年差は+3℃となり、気温が非常に高い日が続いています。

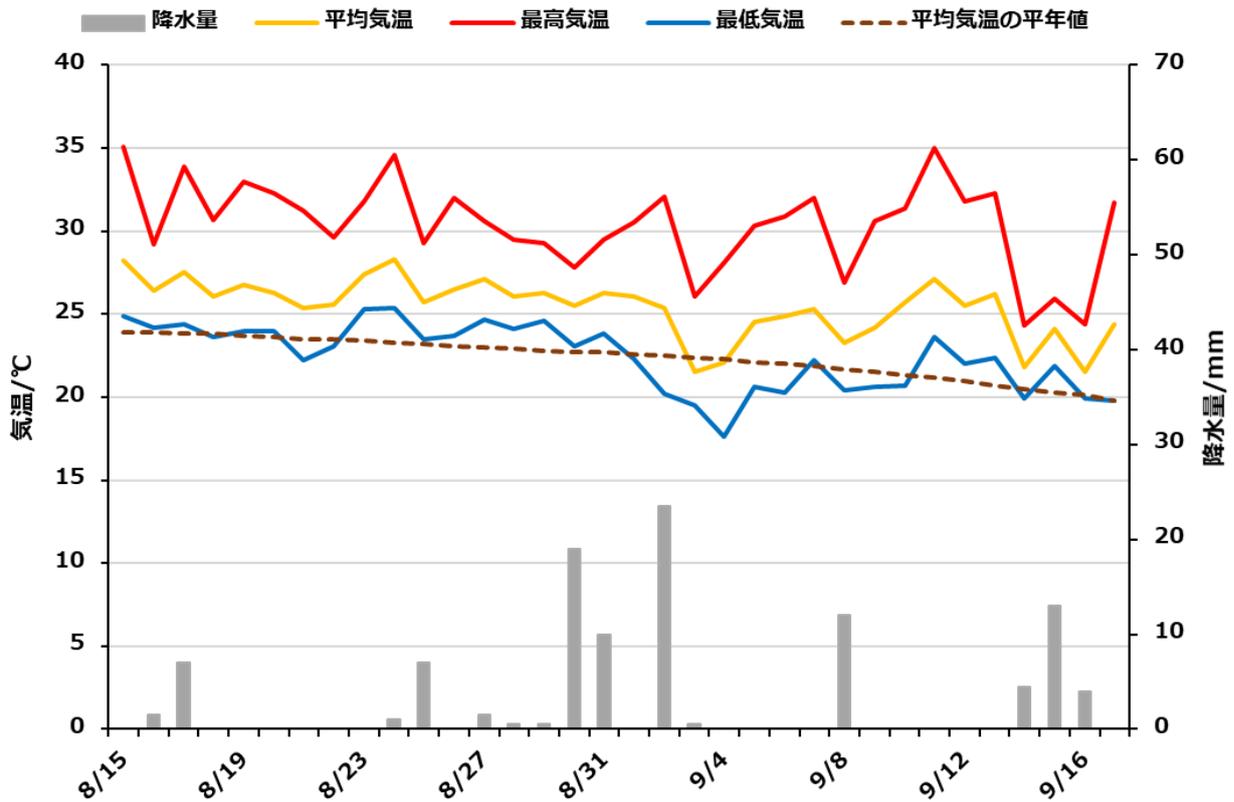


図1 8月15日から9月17日の気温・降水量の推移 (アメダス地点：米山)

9月17日に仙台管区気象台が発表した早期天候情報(東北地方)によると、9月17日頃から向こう2週間の気温がかなり高くなる可能性があるとのこと(5日間平均気温平年差+2℃以上)。



3. 病害虫の発生状況

野菜につく害虫の印象があるハスモンヨトウですが、今年度、宮城県内における一部のりんご圃場で、ハスモンヨトウの卵塊がみられています。ハスモンヨトウは南方からの飛来性害虫で、東北では露地越冬できないとされています。そのため、東北では特に飛来が増加すると思われる、夏季～秋季初頭にかけて被害が目立つ傾向にあります。

老齢幼虫になるに従って薬剤の効果が低くなるので、若齢幼虫のうちに防除しましょう。卵塊や、卵から孵化したばかりで集団になっている幼虫を見つけたら取り除くのも重要な防除法です。



写真1 ハスモンヨトウの老齢幼虫



写真2 ハスモンヨトウの卵塊

4. トピックス～りんごの着色メカニズム～

写真3 孵化した幼虫

・果実の赤色の着色 ⇒ 赤い色素であるアントシアニンが生成されることで起こる現象

・アントシアニンの生成

↓ 幼果期・・・どの品種でもアントシアニンが生成される

↓ 肥大生長期・・・アントシアニンの生成が減少

↓ 成熟期・・・赤色品種：生成が盛んになって真赤に色づく
 黄色品種：生成量が少なく若干色づく程度

・アントシアニンを良く生成するための3つの基本条件

光：光の中でも着色に強く関与するのは紫外線である

温度：10～20℃の低温でアントシアニンがよく生成される

最適温度は品種によって多少異なり、収穫期の遅い品種ほどより低温で生成される

糖度：アントシアニンの素となるのはブドウ糖である



図2 着色のイメージ図

参考：「農業技術体系 果樹編 1 リンゴ」（農山漁村文化協会）

🍎 秋の農作業安全確認運動実施中 🍎 (9月1日～11月30日)

～スローガン「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」～

◆シートベルト、ヘルメット着用の徹底！

◆危険個所では原則、迂回を！

